



(大正15年・1926年、札幌市、田嶋碩朗)の1体。  
昭和年代の昭和19年・1944年)までに建立された銅像は、札幌エリアには、佐藤昌介像(昭和7年、札幌市、加藤顕清)、岩村通俊像(昭和8年・1933年)。札幌市、本山白雲)、サラ・スミス像(昭和12年・1937年)、札幌市、本郷 新)。木下成太郎像(昭和16年・1941年、札幌市、朝倉文夫)の4体。

道央エリアには、廣井勇像(昭和4年・1929年、小樽市、水谷鉄也)、伊藤長右衛門像(昭和16年・1941年)、小樽市、田嶋碩朗)。赤心社開拓功労者像(昭和10年・1935年、浦河町、本郷 新)。

道北エリアには、荒井初一像(昭和4年・1929年、上川町、田村 審火)、岩村通俊像(昭和13年・1938年、旭川市、本山白雲)。

道東エリアには、依田勉三像(昭和16年・1941年、帯広市、田嶋碩朗)が建立された。

## 2. 地域別

戦前建立された銅像は、19体で、地域的みると札幌エリア11体、道央エリア3体、道北エリアが2体、道東エリアが1体、道南エリアが2体であった。

## 3. 職業別

建立された人物の職業を次の分類に基づき整理すると以下の結果である。「開拓者」として依田勉三像、赤心社開拓功労者像。「行政官(含・政治家)」として、黒田清隆像、永山武四郎像、岩村通俊像2体(札幌市、旭川市)、木下成太郎像。

「教育者」として、ウィリアム・クラーク、サラ・スミス像、佐藤昌介像。「技術者・実業家」として、廣井勇像、伊藤長右衛門像、荒井初一像。

「軍人」として、東郷平八郎像、大山巖像、大迫尚敏像等であった。明治期には軍人、行政官等が多い。

これらの銅像の設置母体を概観する。

開拓者の依田勉三像は、中島武市(元、帯広市議会議長)を中心に、赤心社像は住民が先達者を讃え、第1回開拓記念式の開催にあわせて建立された。

「行政官(含・政治家)」は、札幌の有志や旧開拓使の官吏等が発起人となり、銅像建立期成会等を中心に建立の取り組みが行われた。

「技術者・実業家」の廣井勇像、伊藤長右衛門像、「教育者」のクラーク像等は教え子や同窓生が発案し、その後、建立委員会が設立され建立の取り組みが行われた。

サラ・スミス像は、制作者本郷 新の母親が北星女学校の卒業生の縁で制作された。

荒井初一は、旭川商工会議所会頭はじめ8人の発起人を母体に建立された。

「軍人」の東郷像、大山像は実業家、大迫像は、映画館主等を中心に建立の取り組みが行われた。戦前、建立された銅像の最大の特徴は、昭和18年・1843年)の金属回収令により、木下成太郎像を除く銅像が供出の対象となり姿を消したことである。

## Ⅲ. 金属回収令の対象銅像の再建

戦前に建立され金属回収令で供出された銅像が、どのような経緯で再建されたかに関して論考する。

### 1. 金属回収令の対象銅像の再建

#### 1) 昭和20年代

昭和20年代は7体の銅像が建立された。戦後最初の銅像は、昭和23年・(1948年)に建立の札幌エリアのW・クラーク像で、学生有志が発案しW・クラーク先生胸像再建期成会を設立し再建に取り組んだ成果である。

表1 戦前の銅像建立の年代とエリア

| 年代               | エリア     | 地区           | 銅像                                 |                      |
|------------------|---------|--------------|------------------------------------|----------------------|
| 明治               | 札幌エリア   | 札幌地区         | 36：黒田清隆、40：大迫尚敏、42：永山 武四郎          |                      |
|                  | 道南エリア   | 渡島地区         | 39：東郷平八郎 大山巖                       |                      |
| 大正               | 札幌エリア   | 札幌地区         | 15：W・クラーク                          |                      |
| <昭和戦前><br>1年～10年 | 札幌エリア   | 札幌地区         | 4年：クロフォード、7年：佐藤昌介<br>8年：岩村通俊、山田幸太郎 |                      |
|                  | 道央エリア   | 後志地区<br>日高地区 | 4：廣井勇<br>10：赤心社                    |                      |
|                  | 道北エリア   | 上川地区         | 4年：荒井初一                            |                      |
|                  | 11年～20年 | 札幌エリア        | 札幌地区                               | 12：スミス、16：木下成太郎、橋本正治 |
|                  |         | 道央エリア        | 後志地区                               | 16：伊藤 長右衛門           |
|                  |         | 道北エリア        | 上川地区                               | 13：岩村通俊              |
|                  |         | 道東エリア        | 十勝地区                               | 16：依田勉三              |

道央エリアの赤心社開拓功労者の像（昭和27年・1952年）は、荻伏村開基七十周年で戦前と同じ製作者の本郷新によって再建された。戦時下に供出される際に再建を願って石膏で型を保存するなど、村民の願いが成就した結果である。

伊藤右衛門像（昭和28年・1953年）、廣井勇像（昭和28年・1953年）が再建された。伊藤右衛門像、廣井勇像の両像は、戦前は教え子等を中心に建立されたが、戦後は先人の偉業を顕彰するために小樽市が予算を計上し再建された。

道北エリアの荒井初一像（昭和24年・1949年）は会社により再建された。道東エリアの依田勉三像（昭和26年・1951年）は初代像の建立に尽力した中島武市（帯広市議会議員）が再度中心となり再建された。再建像は初代像の復活を願うとともに、戦後の地域振興のシンボリック役割として再建に向けて人々が募金活動に奔走した結果により建立された。



廣井 勇（初代像）  
（胸像企画委員会）



再建像（2代目）



依田勉三（初代像）  
（帯広の森百年記念館蔵）



再建像（2代目）

## 2) 昭和30年代

札幌エリアでは、北大初代総長・佐藤昌介像（昭和31年・1956年、札幌市、加藤顕清）。同じく教育者であった北星学園の創立者のサラ・スミス像（昭和30年・1952年）は、学園関係者で再建された。なお、製作者は戦前と同じ本郷 新である。

## 3) 昭和40年代

札幌エリアには、北海道百年を記念して「北海道開拓功労者顕彰像建立期成会」が中心に黒田清隆像、岩村通俊像が再建された。

初代の両代像の建立地は、札幌市の大通公園内であったが、再建像は黒田清隆像のみが大通公園で、岩村通俊像は札幌市円山公園である。永山武四郎像は、上川方面の屯田兵村の拡大の功績から旭川市常盤公園正面に建立された。この3人の像の再建により「戦前」建立し、供出された銅像の軍人以外は全てが「再建」された。



黒田清隆（初代像）  
（札幌市公文書館蔵）



再建（2代目像）

## 2. 再建に関する考察

### 1) 初代銅像の設置母体

第一報で報告したように、初代銅像の設置母体は下記の5分類である。

（官界が設置母体）

- ・黒田清隆像（故縦一位大勲位黒田伯爵銅像建立会 会長・初代札幌区長・対馬嘉三郎）
- ・岩村通俊：札幌（故岩村男爵銅像建設会：代表・北海道庁21代長官・佐上信一）

（経済界が設置母体）

- ・永山武四郎（故永山将軍銅像建設実行委員会代表・北海道炭鉱鉄道会社社長・井上角五郎）
- ・荒井初一像（建設実行委員会代表・旭川商工会議所会頭・齊藤弥三郎）

（学校関係者が設置母体）

- ・W・クラーク像（開学50周年記念事業・札幌農学

校同窓会)

- ・佐藤昌介 (北大農学部有志)
- ・サラ・スミス像 (北星学園関係者・創立50周年記念事業)

(盟友や門下生)

- ・廣井 勇像 (実行員会：朋友や門下生が主体)
- ・伊藤長右衛門 (故伊藤長右衛門氏銅像建立発起人一同)

(地域住民が設置母体)

- ・赤心社開拓功労者の像 (実行員会代表・澤 吉雄・荻伏村会議長：第1回開拓記念式)
- ・依田勉三像 (実行委員会代表・元帯広市議会議長・中島武市)
- ・岩村通俊：旭川 (故岩村通俊胸像建設委員会)

## 2) 再建銅像の設置母体

最初に再建された銅像は、教育者のクラークを除いて小樽築港の建設や帯広市や荻伏村の開拓に貢献した赤心社開拓功労者の人物であった。黒田清隆、永山武四郎らは北海道で一番早く明治時代の建立であったが、岩村通俊と同様に、昭和40年の北海道百年の記念事業 (経済世界が中心に建立) までまたなければならなかった。

このことは、再建させる契機が行政官の業績でなく身近に恩恵を感じた人物が再建の対象であったことは、興味深い。特にW・クラーク像は昭和23年と一番早く、教育を受けた学生が再建の先頭に立った事を考えると、銅像の建立目的のあるべき姿が浮き彫りになり、真の意味での銅像の持つ顕彰の姿が浮かんでくる。また小樽築港に関わった廣井勇、伊藤長右衛門は小樽の繁栄の基礎を作った人物として市民であれば、異を唱える人はいなかったであろう。

さらに赤心社開拓功労者の像は、前述したように戦時下に供出される際に、再建を願って石膏で型を保存するなど、村民の願いが成就した結果である。改めて銅像のもつ本質を考えさせられる再建である。

## IV. 戦後新たに建立された銅像

戦後新たに建立された銅像の人物について、業績や建立年代や地域別で論考する。

### 1. 年代別

#### 1) 昭和30年代

昭和30年代に入ると世の中が徐々に落ち着きをみせ経済成長にともない銅像が建立されるようになった。昭和30年代は、札幌エリアでは2体の銅像が建立された。医学やスキー界の発展に尽力した大野精七像 (昭和37年・1962年、札幌市、佐藤忠良)。北海道の酪農の父と称さ

れるエドウィン・ダン像 (昭和39年・1964年、札幌市、峯孝年) に関しては「エドウィン・ダン顕彰会」が中心となり建立された。

道央エリアでは、北海道酪農界の先達者の黒澤西蔵像 (昭和37年・1962年、江別市、加藤顕清)、我が国3番目の鉄道敷設工事の指導者のジョセフ・クロフォード像 (昭和31年・1956年、小樽市、中野五一)、国産ウイスキーづくりの先駆者の竹鶴政孝像 (昭和34年・1956年、余市町、本郷 新) が建立された。

道東エリアの松浦武四郎像 (昭和33年・1955年、釧路市、中野五一) は、釧路方面の踏査の結果を「釧摺日記」に記した百年を記念し、阿寒国立公園観光協会が中心となり建立された。

道南エリアには、2人で箱館の発展に尽力した高田屋嘉兵衛像 (昭和33年・1958年、函館市、梁川剛一)。天才歌人と称された石川啄木像 (昭和33年・1958年、函館市、本郷 新) がある。啄木像の建立には、函館の町を発展させた函館四天王の一人で、金森倉庫群の創業者の渡邊熊次郎が中心となり建立された。

#### 2) 昭和40年代

昭和40年代に建立された数は全ての年代の銅像の中で最も多い。「北海道開拓功労者顕彰像建立期成会」は、開拓使教師頭兼顧問のホーレス・ケプロン像 (昭和42年・1967年、札幌市、野々村一男) を黒田清隆像と並ぶように建立した。

また、開道百年を記念して本願寺開道開削の指導者の現如上人像 (昭和42年・1967年、札幌市、新覚紘一郎) が建立された。開道百年記念と直接かかわりはないが、「どんぐりころころ」を作曲した梁田貞像 (昭和42年・1967年、札幌市、安岡周三郎) が建立された。

さらに島 義勇像は2体建立された。1体は昭和46年・1971年に札幌市役所の竣工時、札幌の町づくりを最初に構想したことを顕彰の像である。(昭和46年・1971年、札幌市、山内壯夫)。他の1体は島 義勇が持参した開拓三神を祀ったのがルーツと言われている北海道神宮の境内の島 義勇像 (昭和49年・1974年、札幌市、山内壯夫) である。

道央エリアには、北海道酪農界の近代化を図った町村敬貴像 (昭和48年・1973年、江別市、峯孝)。江別の開祖と言われる榎本武揚像 (昭和45年・1970年、江別市、佐藤忠良)。伊達市の開祖と言われる伊達邦成、田村顕允像 (昭和44年・1969年、伊達市、本郷 新) は共に、昭和44年の伊達町開基百年記念事業として建立された。更に、苫小牧市開基百年を記念して八王子千人同心像 (昭和48年・1973年、苫小牧市、本郷 新) が建立された。

道北エリアは1体で永山武四郎像である。永山像は、

表2 戦後の建立年代とエリア

| 年代             | エリア   | 地 区                  | 銅 像  |
|----------------|-------|----------------------|--|
| <昭和戦後><br>20年代 | 札幌エリア | 札幌地区                 | 3：クラーク   |
|                | 道央エリア | 後志地区<br>日高地区         | 28：廣井 勇、伊藤 長右衛門<br>27：赤心社                        |
|                | 道北エリア | 上川地区                 | 24：荒井初一、26：岩村通俊                                  |
|                | 道東エリア | 十勝地区                 | 26：依田勉三  |
| 30年代           | 札幌エリア | 札幌地区                 | 31：佐藤昌介、32：サラ・スミス 37：大野精七<br>39：エドウィン・ダン         |
|                | 道央エリア | 石狩地区<br>後志地区         | 37：黒澤酉藏<br>31：クロフォード、34：竹鶴政孝                     |
|                | 道東エリア | 釧路地区                 | 33：松浦 武四郎、                                       |
|                | 道南エリア | 渡島地区                 | 33：高田屋嘉兵衛、石川啄木                                   |
| 40年代           | 札幌エリア | 札幌地区                 | 42：黒田清隆、岩村通俊、現如上人、ケプロン<br>43：梁田貞、46：島 義勇、49：島 義勇 |
|                | 道央エリア | 石狩地区<br>胆振地区         | 45：榎本武揚、48：町村敬貴<br>44：伊達邦成、田村顕允、48：千人同心          |
|                | 道北エリア | 上川地区                 | 42：永山 武四郎  |
|                | 道東エリア | 釧路地区                 | 47：石川啄木  |
|                | 道南エリア | 渡島地区<br>桧山地区         | 41：徳川義親、43：平塚常次郎<br>42：荻野吟子                      |
| 50年代           | 札幌エリア | 札幌地区                 | 51：クラーク、57：石川啄木                                  |
|                | 道央エリア | 石狩地区<br>空知地区         | 55：浅井夫妻<br>59：月形 潔                               |
|                | 道北エリア | 上川地区<br>宗谷地区         | 54：スタルヒン<br>55：間宮林蔵                              |
|                | 道東エリア | オホーツク<br>十勝地区        | 53：森繁久弥<br>53：関 寛斎                               |
|                | 道南エリア | 渡島地区                 | 53：久慈次郎、 57：函館四天王                                |
| 60年代           | 札幌エリア | 札幌地区                 | 61：大友亀太郎、美泉定山                                    |
|                | 道東エリア | 根室地区                 | 61：高田屋 嘉兵衛                                       |
| 平成年代           | 札幌エリア | 札幌地区                 | 14：新渡戸稲造、18：村橋久成、22：大友亀太郎<br>29：クラーク             |
|                | 道央エリア | 石狩地区<br>後志地区<br>胆振地区 | 10：松尾三郎<br>元年：有島武郎、21：榎本武揚<br>5：三松正夫             |
|                | 道北エリア | 上川地区<br>留萌地区         | 6：永山 武四郎<br>7：松浦 武四郎、8：松浦 武四郎                    |
|                | 道南エリア | 渡島地区                 | 14：ペリー総督、30：伊能忠敬                                 |

前述の北海道百年を記念し「北海道開拓功労者顕彰像建立期成会」が中心になって黒田清隆像、岩村通像と共に再建されたが、再建地は初代像があった札幌市ではなく、上川方面の屯田兵村の拡大の功績から、旭川市常盤公園正面に建立された。

道東エリアには1体で石川啄木像（昭和47年・1972年、釧路市、本郷 新）。

道南エリアには3体で、北洋漁業の先駆者で、北海道初の大員として入閣した、平塚常次郎像（昭和43年・1968年、函館市、北村西望）が顕彰像建立期成会によって建立された。また、北海道初のクマの木彫りを奨励し、八雲町の開祖と言われる徳川義親像（昭和41年・1966年、八雲町、榊原義達）。更に、開道百年を記念して我が国初の女医の荻野吟子像（昭和42年・1967年、今金町、本

田明二)が荻野吟子女史顕彰碑建設期成会を中心に募金運動が行われ建立された。



現如上人像



荻野吟子像  
(せたな町教育委員会蔵)

### 3) 昭和50年代

昭和50年代に建立された数は10体であった。内訳は札幌エリアには2体あり、1体はW・クラーク像(昭和51年・1967年、札幌市、坂 担道)である。この像の建立に若干の説明を加えると、昭和23年・1948年)に北海道大学構内に再建されたクラーク像の見学のために観光バスが学内に乗り入れ、見学者が多数のために学業や業務に支障をきたしたことから、大学は観光バスの乗り入れを禁止した。その結果、クラーク像の見学ができなくなり、その打開策として札幌観光協会が中心となり、北海道大学創設百年及びアメリカ合衆国建国二百年の記念事業として札幌市豊平区の羊ヶ丘展望台に建立した。

他の1体は、石川啄木像(昭和57年・1982年9月14日、札幌市、坂 担道)である。この像の完成年は啄木没後70周年を記念し、また9月14日は、啄木が函館から札幌に移住のため、明治40年9月14日に札幌停車場に着いた日に因んで除幕式が行われた。

道央エリアは2体で、私学教育・衣服文化の振興に尽力し、北翔大学の創設者である浅井淑子像(昭和55年・1980年、江別市、坂 担道)がある。なお浅井像の横には、後述する夫である浅井 猛像(平成3年建立)がある。

他の1体は、北海道初の集治監である樺戸集治監初代典獄で現在の月形町名のルーツにもなった月形潔像(昭和59年・1984年、月形町、本田明二)。この像は、月形ライオンズクラブ20周年を記念して建立された。

道北エリアには2体あり、1体は我が国のプロ野球初の外国人選手ビクトル・スタルヒン像(昭和54年・1979年、旭川市、本田明二)。間宮海峡を発見した間宮林蔵像(昭和55年・1980年、稚内市、峯孝年)である。

道南エリア体には2体あり、1体はノンプロの発展に

尽力した久慈次郎像(昭和52年・1977年、函館市、砂原放光)。他の1体は、函館のまちづくりの発展に尽力した渡邊熊武四郎、平塚時蔵、平田文右衛門、今井市衛門4人を顕彰した4人で1体像という珍しい函館四天王像(昭和57年・1982年、函館市、秋山紗走武)である。



函館四天王像

道東エリアには2体あり、1体は、「知床旅情」を作詞・作曲した森繁久彌像(昭和53年・1978年、羅臼町、長谷川工)である。この像は、森繁が羅臼町で映画のロケーションを行い、当時の羅臼村長とその後も森繁久彌と親睦を深めたことから、村長を中心に森繁久彌顕彰像建立協賛会が発足し建立された。他の1体は、陸別町の開祖の関 寛斎像(昭和53年・1978年、陸別町、小室史)である。

### 4) 昭和60年代

昭和60年代に建立された数は3体であった。各年代で建立数が最も少ないのは、昭和から平成に年号がかわり、昭和60年代は、4年間と短かったことによる。

内訳は、札幌エリアには2体あり、1体は札幌の開祖と称される大友亀太郎像(昭和61年・1986年、札幌市、松田与一)、他の1体は定山溪温泉の開祖と称される美泉定山像(昭和61年・1986年)、札幌市、小石巧年)である。この像は、定山没後110年あたる昭和61年・(1986年)に定山溪の開祖を顕彰することから定山溪ホテルの社長が中心となり建立されたのである。

道東エリアの1体は、国後・択捉航路を開発した高田屋 嘉兵衛像(昭和61年・1986年、根室市、砂原放光)が建立された。

### 5) 平成年代

平成は、天皇の退位があり31年間であった。その間に建立された銅像は15体であった。

#### ① 平成10年代

平成10年代に建立された数は10体であった。札幌エリア人には2体で1体は国際連盟事務局次長、遠友夜学校を開設した新渡戸稲造像(平成8年・1996年、札幌市、山本正道)。他の1体は札幌麦酒製造の責任者の村橋久

成像（平成17年・2005年，札幌市，中村晋也）である。この村橋像の建立は，田中和夫が村橋の反省を描いた小説「残響」に強い関心をもった鹿児島大学教授の中村晋也（文化勲章受章者）が制作することになった。

道央エリアには4体で北海道初の情報系単科大学を創設した松尾三郎像（平成10年・1998年，札幌市，立体写真像KK）。北翔大学設立に尽力した浅井猛像（平成3年・1991年，江別市，坂 担道）である。文学者であり有島農場を小作人に解放した有島武夫像（平成元年・1989年，ニセコ町，川岸要吉），昭和新山の隆起の様子を克明に記録し「三松ダイアグラム」で知られる三松正夫像（平成5年・1993年，壮瞥町，米坂ひでのり）である。

道南エリアは1体で，江戸時代に函館に来航し，開港の契機となった，ペリー提督像（平成14年・2002年，函館市，小寺真知子）である。



ペリー提督像

この像の建立は平成13年・2001年に，函館日米協会の有志がペリーの胸像制作運動に発端がある。

道北エリアには，3体で屯田兵入植百年を記念して上川神社に永山武四郎像（平成6年・1994年，旭川市，はしもと努）が建立された。戦後，建立された銅像の中で唯一軍服姿のである。他の2体は，同一人物で小平町の松浦武四郎像（平成8年・1996年，制作者は不明），天塩町に松浦武四郎像（平成9年・1997年，天塩町，制作者は不明）がある。小平町の場合は「小平町にしん文化歴史村おこし構想」の一環として小平町を訪れた松浦武四郎を顕彰し歴史を生かした町づくりに位置づけ，小平

町が中心になり建立した。天塩町の場合も同様の趣旨からの建立である。

## ② 平成20年代

平成20年代は4体である。内訳は札幌エリアには3体で，創生川公園建設のために札幌村郷土資料館に保管されていた大友亀太郎像が，公園完成後，平成23年・2011年に設置された。更に同年，札幌村郷土資料館に同型の像が建立された。W・クラーク像（平成29年・2017年，札幌市，清野和幸）がさっぽろ時計台2階に建立された。

道央エリアは1体で今日の小樽発展の基盤を形成した榎本武揚像（平成21年・2009年，小樽市，水谷鉄也）が建立された。

## ③ 平成30年代

この年代は1体で，渡島エリアにある。日本地図作成の測量の第1歩を福島町から開始したことにより，伊能忠敬没200年を記念して伊能忠敬像（平成30年・2018年，福島町，酒井道久）が建立された。

## V. 複数体建立された銅像

戦前建立の銅像は一人1体であったが，戦後は一人で複数の銅像が建立されている。これは業績の大きさまたは商業ベース的な目玉としての建立の両者が混在している。

### 1. 一人3体像

一人で3体の銅像が建立されているのは松浦武四郎，W・クラーク，石川啄木の3名である。

### 2. 一人2体像

2体ある人物は高田屋嘉兵衛，榎本武揚，島 義勇，岩村通俊，大友亀太郎の5名である。

高田屋嘉平は，江戸期に北方にいち早く目を向け，そ



高田屋嘉兵衛（函館市）



（根室市）



島 義勇（札幌市ロビー）



島 義勇（北海道神宮）

の後の北洋漁業の礎を作った人であり、商人でありながら、ロシアとの国交の基本的な枠組みを形作った人物として高く評価されている。拠点であった函館や北方漁業の最前線である根室の地に建立されている。

## VI. 戦前と戦後の比較

### 1. 年代的視点から

戦後の昭和・平成年代を10年単位で区分し、区分毎に建立数をみれば、昭和40年代に建立された数は全ての年代の銅像の中で最も多く、16体は建立された。その主たる理由は、昭和42年・1967年）は開道百年の年にあたり各種記念事業が行われその一環として「北海道開拓功労者顕彰像建立期成会」が設立され、黒田清隆像、永山武四郎像、岩村通俊像、更には、開拓使顧問のホーレス・ケプロン像が建立された。

また、開道百年を記念して荻野吟子像が建立された。この年代、地域においては開基記念事業が行われ、苫小牧市開基百年を記念して八王子千人同心像が建立された。また、伊達町（現・伊達市）の開基百年事業として伊達邦成像、田村顕允像が建立された。

この年代は、建立にあたり自治体が予算を組み、補助金を助成し、建立された銅像が他の年代と比較すると多いことが特徴としてあげられる。

「銅像は古いもの」というイメージがあるが、平成年代にも銅像の建立は続いた。この年代に建立された銅像を概観すると、ニセコ町の有島武郎像は生誕200年、永山神社の永山武四郎像は、永山地区に屯田兵が入植して100年、函館市のペリー総督像は、ペリー函館来航150年、小樽市の榎本武揚像は榎本没100年、福島町の伊能忠敬像は、日本地図作成の測定の第1歩及び伊能没200年等を記念して銅像に建立された。このように平成年代の多くの銅像は、人物の偉業を記念する節目の年度であったことが、他の年度の銅像より記念碑的な側面が多

く多くみらる。

### 2. 地域的視点から

戦前16体・戦後61体の銅像が建立された。その銅像を図1「北海道におけるエリア（札幌・道央・道北・道東・道南）」に基づき建立数の割合を示したが図2、図3である。

図2から札幌エリアが50%と他のエリアと比較して極めて高い割合を示していることである。それは、戦前、札幌エリアが北海道の政治、経済、文化等の活動の中心的な機能を果たしてきた結果であると思われる。

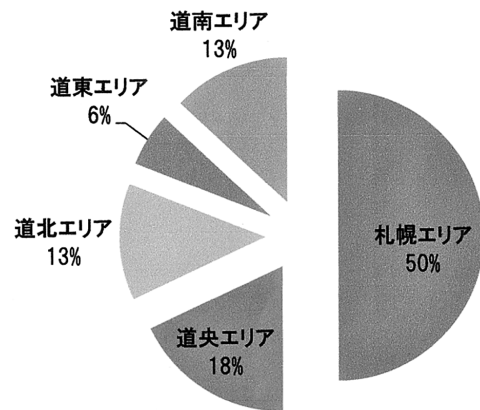


図2 戦前のエリア別建立数

戦後の状況は図3の通りで戦前と比較すれば札幌エリアが減少減り、道央エリアが増加している。この主たる理由は、次項「3」の職業的視点の「技術者・実業家」の人物の像が道央エリアで多く建立されたことによるものと考えられる。札幌・道央エリアを除く他のエリアの割合の状況は、数値に多少の変動がみられるが戦前・戦後ともにほぼ同じ傾向を示している。

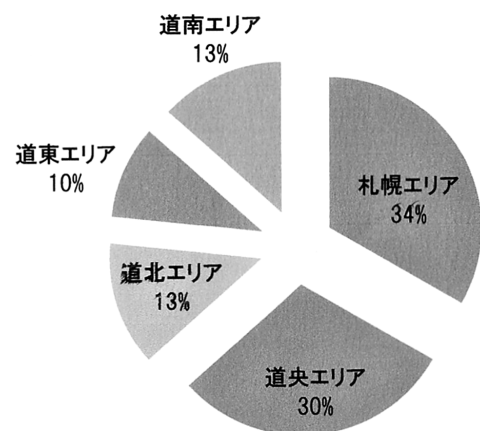


図3 戦後のエリア別建立数

### 3. 職業的視点から

戦前16体・戦後60体の銅像が建立された。建立された



人物の職業をP4のように「技術者・実業家」,「開拓者」,「教育者(含・医師)」,「行政官(含・政治家)」,「軍人」に基づき、その割合を示したが図4、図5である。

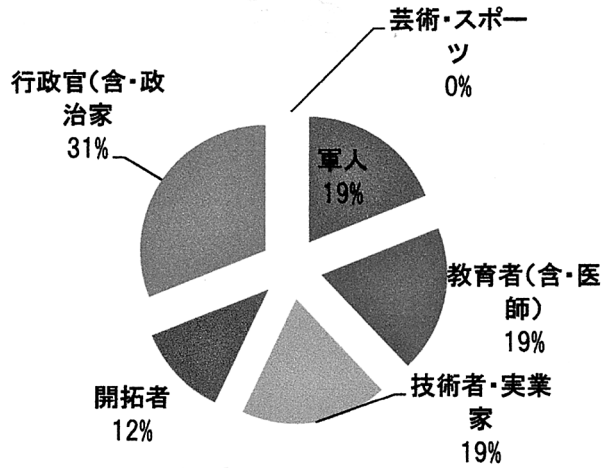


図4 戦前の職業の割合

戦前では、図4から行政官(含・政治家)が31%と最も多かった。それは、明治期、開拓使を中心とした行政制度の設計に関わった人物が多かったことを意味する。他の職業では、開拓者を除くと同じ割合であった。昭和年代に入ると戦時体制の進行下、戦意高揚のために「肉弾三勇士」のような像が多く建立されたが、北海道にはそうした傾向はみられず「軍人」の比率が高くならなかった。

戦後では図5から、軍人が姿を消す一方、開拓者(「高田屋嘉兵衛、島 義勇、伊達邦成、八王子千同心、伊能忠敬、間宮林蔵、大友亀太郎、月形潔、松浦武四郎、関寛斎、榎本武揚」等)41%で最も多かった。前述にかかげた人物が活躍し業績を残したのは古くは江戸時代や明治期等が多い。戦後、それらの人物の業績が社会の発展に寄与したことを顕彰するために、個人・建立期成会・有志等形態が異なるが建立にむけての積極的な取り組みよるものと考えられる。

戦後の特徴のひとつに、戦前には建立されなかった「芸術・スポーツ」:「石川啄木、森繁久彌、梁田貞、ビクトル・スタルヒン、久慈次郎」等の銅像が建立され16%を占めていることである。「芸術・スポーツ」で活躍した人物を顕彰しようとする戦前には見られなかったが、勇気や感動等を与えた人物に対して顕彰する機運が道民の中に培われてきた現れと考える。一方、戦前、最も多かった行政官(含・政治家)像の割合は9%と最も低く、平成6年に建立された永山武四郎像以外は再建像であった。「技術者・実業家」の割合は戦前とすれば多少低いが、建立された人物をみれば村橋久成像、黒澤

酉蔵像、町村敬貴像、竹鶴政孝像、エドウィン・ダン像等ビール・ウイスキー、酪農業等の産業基盤を形成した人物であり、今日、我が国を代表する産業までに発展している。

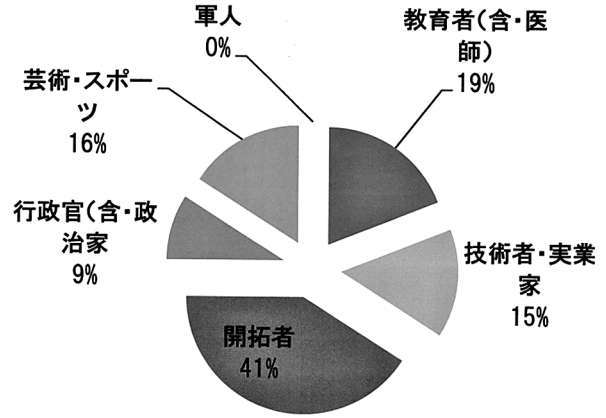


図5 戦後の職業の割合

#### 4. 一人複数体の銅像の視点から

一人で3体の銅像が建立されているのは、石川啄木、松浦武四郎、W・クラーク博士の3名である。2体ある人物は高田屋嘉兵衛、榎本武揚、島 義勇、岩村通俊、大友亀太郎の5名である。

北海道の命名の松浦武四郎、漁業の基盤を築いた高田屋嘉兵衛は江戸時代の活躍である。北海道開拓の行政官の色彩が強いのが榎本武揚、島 義勇、岩村通俊である。札幌の開拓の視点からは、大友亀太郎である。

何れも北海道の基礎に貢献した人物である事は変わりがないが、建立の目的は様々で、政治的・経済的な思惑が働いていることはやむを得ないことであろう。

教育者として北海道大学の開学精神に影響を与えたW・クラーク像の複数設置は、石川啄木同様に観光的な意味合いがあり、銅像建立の本質である顕彰からはやや外れた側面がある。

## VII. 終 わ り

銅像は建立後、不動と思われているが、戦前には黒田清隆をはじめ、既述のように戦争の激化にともない武器生産に必要な金属資源の不足を補う勅令「金属回収令」の対象になり供出。「金属回収令」は、昭和20年10月24日、勅令第601号で廃止。それに伴い、軍人以外の銅像は再建された。

戦後を昭和・平成の年代区分毎に建立の状況をみると、年代や地域によっても建立の状況は異なる。設置母体も、個人・自治体・建立期成会・有志等形態等多様である。

銅像は、建立後基本的には不動であり、換言すれば、「時代をみつめ、時代を映す」ことから「銅像」を通し人物、歴史、地域等を学ぶことができ「歴史的・文化的遺産」としての存在価値があると考えられる。銅像の建立は、今後も続くことが予測されるが、どのような銅像が建立されるかは時代の鏡として注視する必要がある。

(令和5年7月10日・記)

#### 取材協力者（写真提供など感謝いたします）

エドウィン・ダン記念館 北海道立札幌医科大学  
札幌村郷土記念館 北海道大学文書館 北海道神宮  
北翔大学 酪農学園大学 町村農場 北海道情報大学  
有島記念館 ニッカウキスキー余市工場  
浦河町立郷土博物館 関寛斎資料館  
だて歴史文化ミュージアム 帯広の森百年記念館  
七飯町歴史館 小平町 天塩町 別海町 月形町 福島町  
八雲町 せたな町 根室金毘羅神社 釧路市立博物館  
三松正夫記念館

## Ⅷ. 参 考 文 献

- 1) 島津彰・武石詔吾著 「北海道における金属回収令（戦時下）の対象となった銅像～明治期から戦前の建立の歴史～」北翔大学北方圏学術情報センター vol. 14 2022
- 2) 小沢信行著「こうしてできた北の銅像」柏艸舎
- 3) 舟本秀男著 北海道命名150年「北加伊道」60話 財界さっぽろ
- 4) 金子治夫著 日本の銅像 淡交社
- 5) 原子修著 北海道野外彫刻ガイド 北海道新聞社
- 6) 札幌市教育委員会編 さっぽろ文庫6 時計台
- 7) 札幌市教育委員会編 さっぽろ文庫21 札幌の彫刻
- 8) 札幌市教育委員会編 さっぽろ文庫45 札幌の碑
- 9) 札幌市教育委員会編 さっぽろ文庫66 札幌人名事典
- 10) 北海道新聞社編「北海道立人物事典」 北海道新聞社
- 11) 読売新聞北海道支社編集部編「ほっかいどう先人探訪」 星雲社
- 12) 平瀬礼太「銅像受難の近代」吉川弘文館 2011年
- 13) 私家文書 武石詔吾  
「北海道の銅像建立の歴史～いつ・誰が・なんのために建立等を紐解く～」2021・3

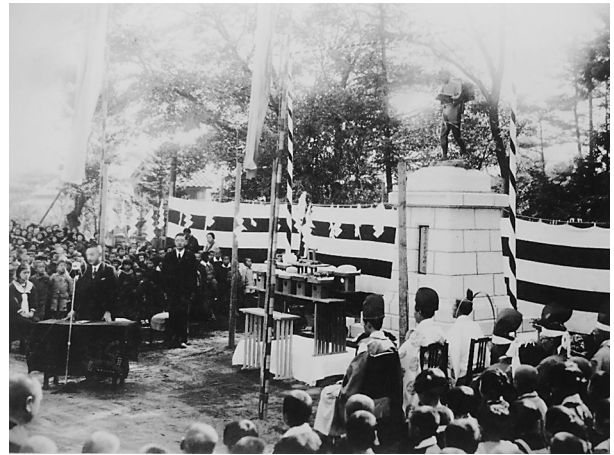
#### 資料 「二宮尊徳像の建立、供出、再建」

\*北海道北斗市立上磯小学校の二宮尊徳像

日本で初めて二宮尊徳像が建立されたのは、1924年（大正13年）に愛知県豊橋市前芝小学校であり、尊徳生誕150年（昭和12年）と皇紀二六〇〇年（昭和15年）の国家的事業が重なり、全国に建立が拡大していった。尊徳の報徳精神は、天皇を頂点とする国民精神総動員運動とも合致し、国家の期待する具体的な人物像として、学校教育のシンボルの地位を占めていった。

その後、戦時下の中で昭和16年8月に「金属供出令」が出され、二宮像もお国のための出征となり、白樺を掛けて出征兵士と同じように、児童に見守られながらの壮行式が行われた。上磯小学校では昭和17年10月に供出のための壮行式が行われ、再建は昭和31年4月であった。

戦後、二宮尊徳は一円紙幣として復活し、教育的な価値の見直しがあり、戦後の民主主義の新たなシンボルとして銅像の再建が各地で成された。



初代像の建立式典（昭和15年10月）



二代目像の建立式典（昭和31年4月）